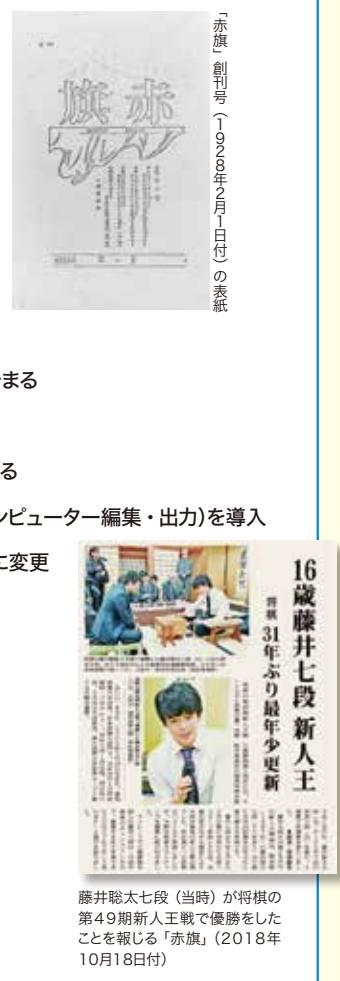


「しんぶん赤旗」の歩み

1922. 7.15 日本共産党創立
1928. 2.1 「赤旗(せつき)」創刊。月2回刊行
1935. 2.20 弹圧により第187号を最後に停刊
1945. 10.20 再刊第1号
1959. 3.1 「アカハタ」日曜版発行
1966. 「声の赤旗日曜版」を発行
1969. 10.15 「赤旗」将棋・第1期新人王戦が始まる
1975. 1. 点字「赤旗」(月刊)創刊
1975. 7. 「赤旗」囲碁・第1期新人王戦始まる
1992. 2. 全面CTS(電算写植システム=コンピューター編集・出力)を導入
1997. 4. 1 題字を「赤旗」から「しんぶん赤旗」に変更
日曜版のタブロイド化
2000. 5. 日刊、日曜版ともに紙面のカラー化
2006. 7.23 「赤旗」2万号
2018. 2.1 「赤旗」創刊90周年
2018. 7.2 日刊紙の電子版発行
2018. 3.1 日曜版創刊60周年



赤旗記者募集
特設サイト
こちらから



発行 日本共産党中央委員会
赤旗編集局
住所 〒151-8586 東京都渋谷区千駄ヶ谷4の26の7
電話 03(3403)6111(代表)
日本共産党 公式サイト <https://www.jcp.or.jp/>
編集局メールアドレス hensyukoe@jcp.or.jp





いま赤旗は どんな新聞? 5つのポイント

point 1

国民の苦難軽減 のために

新型コロナウイルス感染症の世界的流行のなかで、世論や運動と連携して政治を前に動かす大きな役割を果たしています。また、全国各地で起こる豪雨災害では現場の実態と要望をつぶさに取材。住民の暮らしと生業(なりわい)の再建に向けた報道をしています。要求実現で立ち上がる労働組合や市民団体のたたかいと連帯し、応援する報道を続けています。「赤旗」の報道には、国民の苦難を軽減するという立党の精神が根本にあります。

point 2

権力を監視する

「赤旗」のスクープが国会論戦の焦点となり、他のメディアも後追い報道、ウソと隠ぺいを繰り返す安倍政権を追い詰めています。森友・加計学園をめぐる疑惑をはじめ、「桜を見る会」私物化問題、河井前法相夫妻の買収事件など数々の疑惑を追及しています。暴走する権力をチェックし、そこに不正があればしっかりと告発します——「赤旗」はジャーナリズムの精神をいかんなく発揮している新聞です。



point 3

野党共闘をすすめ 市民と連帯のネットワーク

市民と野党の共闘の前進になくてはならない「国民共同の新聞」です。「桜を見る会」私物化疑惑では野党一体となって「追及本部」を立ち上げ、安倍政権を追い詰めました。国会共闘で英語民間試験などの導入見送りに追い込みました。大手メディアが政権と党偏重の報道を続ける中で、野党共闘の進化をあますことなく伝えている唯一の全国紙が「赤旗」です。



point 4

ジェンダー平等の 視点を貫く

ジェンダー差別をなくそうと声をあげた人を孤立させず、切実な要求実現に力を尽くすこと。そしてジェンダー平等を妨げる政治を転換すること。日本共産党大会での呼びかけに応え、ジェンダー平等の実現をめざす企画を充実させるとともに、「赤旗」の隅々までジェンダーを行き渡らせようと日々努力しています。

point 5

未来を語り 展望が見える

世界でも日本でも社会の脆弱(ぜいじやく)さ、矛盾を明らかにした新型コロナ危機。コロナ危機を乗り越えてどういう社会をつくるか、模索が始まっています。「赤旗」は、識者による医療、教育、ジェンダー平等、新自由主義の揺らぎ、資本主義の矛盾のあらわれなどさまざまな角度から問題を提起しています。連帯の力で危機を乗り越えた先に、新しい希望ある日本と世界をつくる展望を示しています。



赤旗編集局で働く人を募集しています

タブーなく真実を伝える、国民共同の新聞——「しんぶん赤旗」をあなたも一緒につくりませんか。赤旗記者の仕事には、取材部門（海外特派員、地方総局勤務を含む）、カメラマン、製作部門（整理部、校閲部など）、事務部門（広告部、総務部など）があります。それぞれの得手を生かして働けます。

資格は日本共産党員であることです。記者募集は通年でおこなっています。2020年8月～10月は「特別募集」にとりくみ、赤旗記者の大幅採用をめざしています。ふるって応募してください。

応募から採用までの流れ

①応募の申し込み → ②書類に記入し郵送 → ③書類審査

赤旗編集局総務部に申し込んでください。経歴報告書など応募書類を郵送します。

→ ④筆記試験 → ⑤試験結果を通知 → ⑥面接

5科目の筆記試験（政治・経済、社会・国語、日本共産党について、論文）があります。

試験の結果を編集局から連絡します。

最後に面接をして採用が決まります。

筆記試験は、赤旗記者になるにあたって基本的なことを身につけていかどうかを見るためのものです。綱領と党大会決定、中央委員会総会決定を学習し、「しんぶん赤旗」をきちんと読んで挑戦してください。

赤旗記者は、中央や地方で活動する勤務員、国会・地方議員と同様に党活動を仕事にする常任活動家です。社会や国民のために尽くす献身性、困難にくじけず、決めしたことや、やるべきことを最後までやりとおす不屈性、理論的には先々を見通す先見性が求められます。

記者募集についての問い合わせ

赤旗編集局総務部 03(3403)6111(代表)

編集局に一度来てみませんか

日本共産党本部・赤旗編集局内を案内し、あなたの疑問に記者が答えます。本部食堂で昼食をサービス。大学生・専門学校生には往復交通費を支給します。

申込先 赤旗編集委員会 メール Hata-Bosyu@akahata.com
名前、所属党支部または民青班、学生は学校名・学年、電話番号、
参加希望日を明記

問い合わせ 党本部代表 03(3403)6111 赤旗編集委員会・見学会担当へ

赤旗見学会

毎週土曜日開催
午前11時20分に党本部集合
午後3時すぎに終了予定
(他の曜日も要相談)

好評開催中

募集
NOW

先輩 VOICE



忘れないその瞬間

自分の中で見る
政治が変わる現場

笹川
 神由
 日曜版編集部
 2014年入局

政治が変わる現場を、自分の目で見ることができる——。それが私たちの仕事の醍醐味（だいごみ）です。

その現場を初めて目にしたのは、記者になつて1年半のこと。いわゆる「大阪都」構想をめぐる住民投票がありました。ビラ配布やCMが無制限の住民投票は史上初。「悪政」を進める政治に対して市民が自発的にまちに繰り出す姿を関西総局で取材しました。

結果は反対多数で否決。市民が権力に「ノー」を突きつけた瞬間は、今でも忘れることができません。

安倍政権の内閣官房参与にインタビュー

したこともあります。現役の参与が「赤旗」に登場し、「消費税の10%への増税は日本経済を破壊する」と語りました。立場や考え方は違つても『悪政に反対』という一点で取材に応じてくれる——。これも仕事の魅力の一つです。

首相主催の「桜を見る会」疑惑では、安倍晋三首相の地元で首相の後援会員らを取材しました。大手メディアがこの疑惑を報じたのは、「赤旗」が報じてから1カ月後でした。

読者が日ごろ感じる「これはどういうこと?」という疑問を、市民目線で取材し、記事にする。やりがいを感じられる仕事です。



白石光

写真部
2017年入局

「魅せる」写真を 撮るために 「やつてみたい」気持ちが大事

私が赤旗記者を目指したのは、「世の中を変えたい」という崇高な目的があったわけではありません。率直にいうと、幼い頃からの「動物を撮るカメラマンになりたい」という夢をかなえるためでした。

これまで何度か動物の話題を扱いました。たとえばお正月の企画で、お年寄りや入院患者の心身のケアをする「セラピードッグ」や、環境悪化で激減している「カヤネズミ」という日本で一番小さなネズミを取り上げたこともあります。カヤネズミの取材では、京都まで赴き、河原で巣を撮影しました。

夜が明けきらないうちから出発して、白鳥の撮影をすることもあります。冬だったのでと

ても寒く、震えながらの撮影でした。思いどおりに動いてくれない白鳥を、ばしっとフレームにおさめたときはとてもうれしく感じました。

紙面に載る写真は動物だけでなく、選挙や災害、風景や集会などさまざまあります。日本全国を駆け回ります。1日で何カ所もの撮影をこなすこともあります。大変ですが、とても楽しい、やりがいのある仕事だと思っています。

赤旗記者としてやっていくには、「やってみたい」という気持ちが大事だと思います。私は、これからも自分の夢・目標のために頑張りたいです。「赤旗」を読んでくださる方を魅せることのできる写真を撮るために。



中野侃

政治部
2018年入局

政治の現場の最前線にいる 毎日、刺激的な体験の連続

実感できる瞬間が、何よりのやりがいです。

政治部の記者をしていて感じるのは、自分が政治の現場の最前線にいることです。その時々の政治課題に正面から向き合い、国会にも足を運び取材をする。さまざまな領域の専門家、識者に話を聞くことができる。楽なことばかりではありませんが、毎日刺激的な体験の連続です。

赤旗記者になって3年目。現在は政治部に所属し、日々めまぐるしく変化する情勢を必死に追いかけています。

これまで東京高検の黒川弘務前検事長の定年延長問題、河井克行・案里夫妻の大規模買収事件など政治の不正や安倍政権の疑惑について取材をしてきました。

安倍政権のウソや矛盾がいたる所で噴出し、国民の政治不信は強まるばかり。そんな中で、信頼できる政治への転換の道を示すことは、赤旗記者の大きな仕事だと思います。自分の書く記事一つひとつが政治や社会を変える一端を担っている。そう

大学時代はメディア論を専攻し、真に社会的価値のある情報とは何かを学んできました。報道機関の使命は「権力の監視」です。時の政権に対してもタブーなく切り込み、真実を追求することができる。「赤旗」の最大の魅力です。

各部の紹介 国民の目線で取材、紙面づくり

赤旗編集局には22の部があります。

政治部

政党・政局、安保・外交、内政の各担当のほか、国会に取材団が常駐。国会論戦、政府・各党の動向、発展する野党共闘、安保から暮らしの問題まで、時の焦点、政治の深層を深く取材し、的確に伝えます。

外信部

激動の世界をリアルに報道。とくに、民主主義や生活向上をめざし、政治を変えようがんばる各国の市民、労働者のたたかいや思いを伝える記事は、他紙にはないものと好評です。

社会部

安倍首相による国政の私物化など「政治とカネ」の追及から、豪雨・地震といった大災害、社会保障、原発、最先端の科学、教育まで森羅万象が取材対象です。悪政で苦しむ庶民の目線で報道し、打開の方向を考えます。

論説委員会

1面コラム「潮流」と2面「主張」の担当です。政治、経済、社会、文化、スポーツ、ジェンダー平等…。多彩なテーマを多様な視点と切り口で分かりやすく伝えます。

国民運動部

平和、労働、農林漁民、女性、青年、市民…国民各層・各分野の動きや官邸前行動などのたたかいを伝える「しんぶん赤旗」ならではの部です。

特報チーム

日々の焦点や問題について、新鮮な材料と深みのある論理で本質に迫る、わかりやすくて読み応えのある企画を追求しています。



経済部

巨大金融資本と多国籍企業が利益をむさぼる現代資本主義システムの構造問題に国民の立場から迫り、調査にもとづいて報道します。俗論、珍論、ウソ、ごまかしを追及し、読者とともに紙面をつくります。

スポーツ部

フェアプレーを大事にし、選手の権利を守り発展させる視点は他紙にないもの。アマチュアスポーツや体罰問題も重視しています。



地方部

地方発のニュース、政治・社会問題、草の根の運動、話題や人など、多彩な記事を、「地方政治がわかる」「市民と野党の共闘を広げる」をモットーに、地方版や地方総合面はもとより、全紙面にわたって掲載しています。

くらし家庭部

医療や福祉から教育・料理など、くらしに関わるすべてがテーマ。「くらしの目線」で迫ります。ジェンダーや子育て連載は必読。多彩な専門家が答える電話相談は「赤旗」ならでは。今日よりちょっとすてきな明日を応援します。



党活動部

国民の期待にこたえた強く大きな党をつくるための地をはうような努力、党活動のやりがいと苦闘、喜びを伝え、日々の活動推進の力になる紙面をつくりています。



各部の紹介 つづき

テレビ・ラジオ部

16面の番組表は17地域分を作成。14面にもテレビ・ラジオ欄をもうけ、週1回の月曜特集とあわせ、注目の番組、放送現場を取材するなど多角的な紙面を提供しています。

囲碁将棋行楽部

「しんぶん赤旗」主催の囲碁・将棋の新人王戦、詰将棋・詰碁、詰連珠を担当。ガイドブックとは一味違う旅案内、クイズ、釣りも好評です。

写真部

「100行の記事にもまさる1枚の写真」を撮るために、カメラ、パソコンを肩に現場に出動します。

集中して
校閲します



校閲原稿が
入ってきました



広告部

書籍から民宿、物産など、暮らしに役立つ広告を担当。大企業からの広告収入に依存する一般紙とは違います。

読者室

読者の皆さんとの連帯、つながりの場になっている「読者の広場」。若いこだまや絵手紙、「わが家のベット」欄も好評です。



校閲部

各部の原稿の誤字、脱字や文章の不備をチェックし、資料にあたって事実を確認。正確な紙面をつくります。

整理部

「記事を生かすも殺すも整理の腕」と言われます。「1面をどうするか、トップ記事をどうつくるか」。記事の価値を判断し、見出し、レイアウトを考え、パソコンを駆使して紙面をつくります。



工程管理・開発部

各部、国会、地方総局、海外支局をつなぎ、原稿の投稿から紙面づくり、印刷までのネットワークを管理しています。

総務部

記者が仕事上必要な各種の業務を担っています。備品の調達・管理、社会保険、健診、原稿料、支払い・請求など多岐にわたります。

日曜版編集部

日本最大部数の週刊紙を担当。未来に希望をもち日々の生活に勇気がもてる——紙面を目指します。「桜を見る会」疑惑などスクープ力や多彩な文化・芸能人の登場にはメディアも注目。暮らしに役立つ企画にも力を入れています。

編集局の紹介

あかつき印刷株のASビル(地上8階、地下4階)4~8階にあります。

地方の取材網

編集委員会のもとに編集センターと22の部があります。地方の取材網は北海道から九州・沖縄までをカバーする五つの総局と四つの支局があり、都道府県に専任通信員が配置されています。また、地方議員や党機関の役員、支部の通信員から記事や情報が送られてきます。

世界から発信

海外の取材網は、北京、ハノイ、カイロ、ベルリン、ワシントンDCの5都市に支局を置き、それぞれ特派員が活動しています。大きな事件やニュース、重要な国際会議があれば、海外支局や東京の編集局から記者が飛びます。五輪やW杯などの国際的なスポーツ大会にも記者を派遣しています。

パソコンで 記事作成、紙面編集

紙面編集は、すべてコンピューターシステムでおこなわれています。記者の記事作成から記事・写真の送稿、整理記者のレイアウトまですべてパソコンでの作業です。

知ってますか? 「しんぶん赤旗」だけの情報

赤旗電話相談

法律、年金・社会保険、医療福祉、教育、税金、マンションなどそれぞれの専門家による無料電話相談です。信頼と信用を長年にわたって得ています。

高層天気図

登山愛好家に欠かせない確かな気象情報として頼りにされています。

囲碁・将棋の新人王戦

プロ棋士の登竜門として棋界に不動の地位を確立。囲碁、将棋ファンには見逃せないコーナーです。

働き方 Q&A

Q 給与や一時金は?

A 日本共産党の財政は、企業・団体献金や政党助成金をいっさい受け取らず、党費、「しんぶん赤旗」などの発行による事業収入、党員や支持者からの個人寄付などでなりたっています。財政的にも、党員と国民一人ひとりの浄財に支えられ、社会変革の事業にとりくんでいます。公務員並みの給与支給をめざしていますが、残念ながら、まだ、そこまでの水準にはなっていません。

給与は男女同一賃金、4年制大学を卒業して2020年4月に入局した記者の基本給は、20万2600円です。2020年夏の一時金は、月額給与の1カ月分の支給でした。社会保険は完備され、奨学金を返済している人への援助制度もあります。



食堂

Q 休みはどうなっているの?

A 日曜日・祝日は基本的に休みです。休刊日以外は新聞を発行していますから、休日出勤する場合は代休が保障されています。2020年9月から、月1回の週休2日を実施。有給休暇は夏期休暇を含めて20日間取れます。

Q 福利厚生は?

A 党本部には、食堂、フィットネスルーム、資料室などの施設があり、赤旗記者も利用できます。



Q 子育てしながら働けますか?

A 子育てや介護をしながら働けるよう、産休や育休、介護休暇の規定があります。職場では、助け合いの精神を大切にしています。

Q 体や心の健康支援は?

A 年1回の健康診断、ストレスチェックを実施。体と心の健康を大切にする職場です。ハラスマント対策では、相談員が決められていて、気軽に相談できます。心の健康相談で専門家のアドバイスを受ける制度もあります。



フィットネスルーム



資料室



Q スキルアップの制度は?

A 赤旗記者としての基本は、新入局記者教育を毎年実施しています。特徴は、取材の仕方、記事の書き方、写真の撮り方、用字用語など記者活動の基本を学ぶとともに、党綱領や科学的社会主義、党史、赤旗の歴史、規約と党建設などを学びます。入局1年目、2年目には、党綱領と科学的社会主義を同期メンバーで学ぶセミナーも実施しています。



Q 資格は必要?

A とくに必要な資格はありません。学歴も問いません。特派員として海外に赴任する前に語学教室で一定期間学ぶこともできます。

社会変革と 真のジャーナリズムのために

「しんぶん赤旗」をご一緒につくりませんか

青年・学生党员、民青の仲間のみなさん、そしてこのパンフレットを手にされたすべてのみなさん

「しんぶん赤旗」とはどういう新聞なのか、どんな記者がどういふ思いで毎日の仕事にとりくんでいるのか、職場の環境や働く条件など、赤旗編集局の一端を知つていただけたと思います。

「人の役に立ちたい」「社会を変えたい」「自分をもつとみがきたい」—あなたのそんな思いを「赤旗」に託してみませんか。「赤旗」はみなさんの思いを受け止め、ともに考え、悩み、語り合いながら、一緒に成長していく。どうか、ふるってご応募ください。

命と暮らしを脅かすコロナ禍、追いうちをかける豪雨災害…こういう時こそ、読者のみなさんのお役に立ち、頼りになる紙面をつくり、勇気と元気、笑顔をお届けしたい。「国民の苦難あるところに『赤旗』あり」—これは、1928年の「赤旗」創刊以来の変わらぬ決意です。

赤旗編集局長
小木曾 陽司



安倍政権の民意無視の暴走、国政私物化はとどまるところを知りません。権力を監視し、真実を報道するのがジャーナリズムの役目ですが、大手メディアはその責任を果たしているとはいえません。それができるのは、いつさいのタブーがない「赤旗」です。権力の不正にいつも目を光らせ、草の根の組織に依拠した調査力、追及力で政権を追い詰めています。みなさん、ともに真のジャーナリズムの道を歩もうではありませんか。

「赤旗」は、安倍政権を倒し、新しい政治を実現するために、市民と野党の共闘をとことん追求します。すべての国民がコロナ危機を体験して、新しい社会への模索が起きている中、利潤第一主義の資本主義を乗り越えた未来社会の展望を語る新聞は、「赤旗」をおいてほかにありません。

「赤旗」は、社会変革をめざす日本共産党の機關紙であると同時に、タブーなく真実を伝える国民共同の新聞です。コロナ危機を乗り越え、新しい日本と世界を—このわくわくするような共同の事業に、日本共産党员として、「しんぶん赤旗」の記者として参加してみませんか。

みなさんの応募を心よりお待ちしています。